九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Effect of empathy trait and gender on attention to face

崔, 多美

https://doi.org/10.15017/1500799

出版情報：九州大学, 2014, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

（様式６－２）

氏　　名	崔　多美
論　文　名	Effect of empathy trait and gender on attention to face 共感特性と性別が顔に対する注意反応に及ぼす影響
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　綿貫茂喜 副　査　　九州大学　　教授　　森　周司 副　査　　九州大学　　教授　　樋口重和

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本博士論文では、二つの実験を通じて、個人の共感特性と性別が顔に対する注意反応に及ぼす影響を調べることを目的とした。

第一章では、関連先行研究の結果と本論文の目的について述べた。

第二章では、顔・非顔刺激に対する注意反応に共感特性が及ぼす影響を調べた。共感特性は質問紙で測定された。被験者は顔表情（喜び・怒り）と花の色（黄色・紫色）を区別した。この際の事象関連電位のLPPを解析した。その結果、顔表情に対してのみ、共感特性と早期・後期LPPとの間に正の相関関係があり、共感特性が高い人ほど他人の顔に注意を向けることが分かった。

第三章では、第二章の結果を再分析し、顔・非顔刺激に対する注意反応における男女差を調べた。再分析の結果、顔に対して、女性は男性よりポジティブなLPPピークを見せた。この結果は、共感特性に男女差がなくても見られた。従って、本章の結果は女性が男性に比べ他人の顔に特に注意を向けることは、女性固有の特徴（例：子育て）によるものである可能性を示唆する。

第四章では、様々な顔表情に対する注意反応に共感特性が及ぼす影響を調べた。被験者はニュートラルな顔表情から五つの顔表情（喜び、怒り、驚き、恐怖、悲しみ）を区別した。この際の事象関連電位のN170とLPPが解析された。その結果、共感特性はN170とは負の相関関係を、早期・後期LPPとは正の相関関係を示した。これは、共感特性が高い人は低い人に比べ、非常に早い段階（170ms）から他人の顔に注意を向けることを示唆する。

第五章では、第四章の結果を再分析し、様々な顔表情に対する注意反応における男女差を調べた。再分析の結果、N170においては男女差はなかったが、LPPにおいては差があり、女性が男性に比べ大きいLPPピークを示した。このことから、顔表情の区別における注意反応の男女差は、比較的後期の注意反応から見られることが分かった。

本研究成果は、共感特性が顔の認知能力と関連し、共感特性の高い人は他人の顔に注意を向ける等、共感特性に関する新しい知見を得たものであり、価値ある業績と認められる。

最終試験

この論文について，論文調査委員会は，平成 27 年２月６日 13 時から大橋地区 524 教室において，崔　多美氏及び論文調査委員全員の出席により，公開による論文の調査及び最終試験を実施した。

論文内容について，崔　多美氏は論文調査委員（全員）の質問、例えば、注意の義務処理、共

感特性の大小と社会生活上の問題点との関連性等の質問に対し、的確にかつ明確な回答を行い，また，口頭又は筆答により行われた関連の授業科目等に関する調査についても，論文調査委員を満足させる回答を行ったので，論文調査委員会は最終試験を合格と認定した。

以上のことから，論文調査委員会は，崔　多美氏が博士（芸術工学）の学位を授与されるのに相応しいと判断した。